資産形成の次の焦点～デキュムレーションの重要性

政策調査部　フェロー　村上 隆晃(むらかみ たかあき)

デキュムレーション(decumulation)とは、資産形成期に積み上げてきた金融資産を、引退後やセカンドライフにおいて計画的に取り崩し、生活費や目的資金として活用していくプロセスを指す(資料)。積立(アキュムレーション)の反対概念であり、「いくら増やすか」ではなく「いつ・どのくらい・どの順番で使うか」が核心となる。具体的には、年金受給と金融資産の取り崩しの組み合わせ、定額・定率の引き出し方法、運用を続けながらの部分的取り崩しなどが含まれる。「退職後、毎月いくら取り崩せば安心して暮らせるのか」、多くの人が直面するこの問いに答える考え方がデキュムレーションである。デキュムレーションは、単なる「資産の消費」ではなく、人生後半の選択肢を支える戦略的マネジメントだといえる。

デキュムレーションが注目される背景

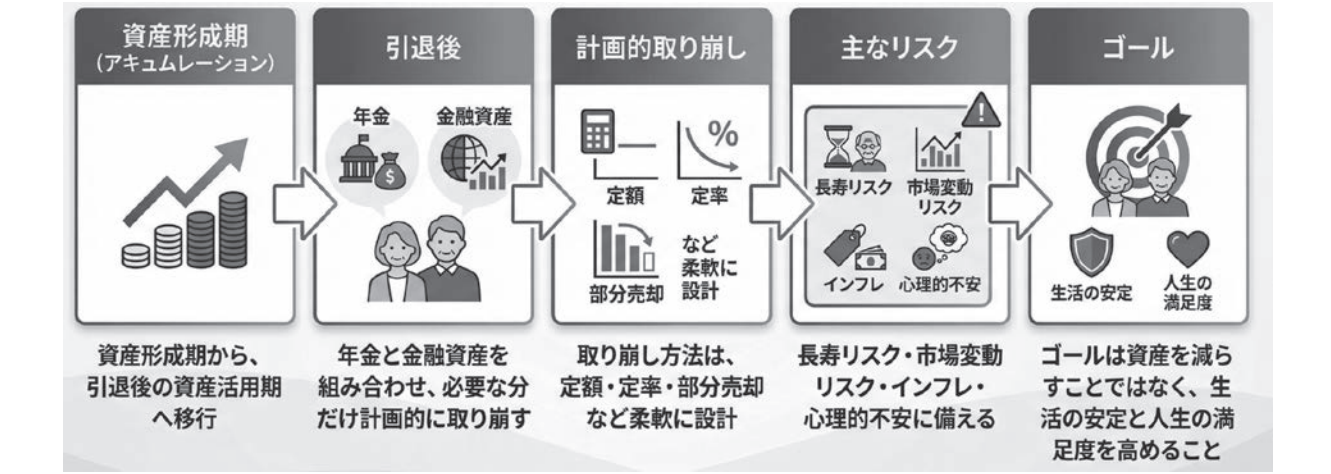
この概念が注目される背景には、いくつかの構造変化がある。第一に、長寿化の進展により、引退後の期間が20年、30年と長期化し、「資産が足りるか」だけでなく「使い切れずに終わる不安」も同時に生まれている。第二に、公的年金だけでは生活水準を維持しにくいという認識が広がり、私的な金融資産への期待が拡大した。第三に、NISAや確定拠出年金の普及により、個人が運用主体となる時代が到来した一方、出口戦略については十分に整理されてこなかった点などがある。さらに、相場変動の大きさやインフレ懸念は、「順序リスク」すなわち運用開始直後に相場が下落すると、その後の回復が難しくなるリスクを浮き彫りにした。こうした状況の中、「殖やす金融教育」に加え、個々人のライフデザインに沿って「取り崩す(使う)金融教育」への着目が求められ、デキュムレーションの重要性が指摘されるようになった。

デキュムレーションはファイナンシャル・ウェルビーイングにとっても重要な要素

今後、デキュムレーションは金融商品・サービスの設計やアドバイスのあり方、金融経済教育、さらにはファイナンシャル・ウェルビーイング(FWB)を巡る政策とも深く結びついていくと考える。FWBとは、「お金の面で安心できて、将来のことを考えながら自分らしい人生を選べる状態」を指す。政策との関りでいえば、政府の資産運用立国実現プランの一環として2024年に設立された金融経済教育推進機構は国民のFWB実現をミッションに掲げていることなどが挙げられる。

デキュムレーションは、老後を切り詰める技術ではなく、蓄えた資産を人生の価値に変換するための知恵である。資産を残すことが目的化しがちな社会において、「上手に使うこと」が、これからの金融リテラシーの核心の一つになっていくだろう。

資料　デキュムレーションの全体像



(出所)Gensparkにより第一ライフ資産運用経済研究所作成